

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 豊田市民芸館【愛知・豊田】(<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/exhibitions/>)

2月8日(火)～5月29日(日)

第103回企画展：新収蔵品展

当館では民芸の普及・啓発のため、日頃から優れた資料を収集しています。今回は平成26年度から令和2年度に収集した資料のうち、日本民藝館展の優品、こけしなどの郷土玩具、絞り染め、手漉き和紙、ころも焼などのやきもの等、未展示資料を中心に約200点紹介します。



2. 国立工芸館【石川・金沢】(<https://www.momat.go.jp/cg/exhibition/#upcoming>)

4月5日(月)～6月19日(日)

企画展：未来へつなぐ陶芸－伝統工芸のチカラ展

伝統的な陶芸の歴史をつくってきた日本工芸会陶芸部会の活動が2022年に50周年を迎えたのを記念して、伝統陶芸の活動の歩みと多彩な展開を紹介する展覧会を開催します。日本工芸会の中でも会員数が最も多い陶芸部会は、1973年、重要無形文化財保持者(人間国宝)らの声掛けにより、会員の活動をさらに活性化させる目的で活動が始まりました。陶芸技術の保存と活用はもとより、先達たちが培った技術・技法への対応からさまざまなことを学び、それを糧として自身の想いを作品に映し出しています。本展では、歴代の人間国宝の名品をはじめ、草創期に勢力を二分した日展や陶芸部会以外でありながら伝統の世界に刺激を与え続けている陶芸家の作品、さらには新進作家らの最新作を取り上げ、その歩みと未来へつなぐ陶芸の技と美を137名の139点で紹介します。



十四代今泉今右衛門

《色絵雪花薄墨墨はじき萩文鉢》

2019年 個人蔵

3. 戸栗美術館【東京・渋谷区】(<http://www.toguri-museum.or.jp/tenrankai/next.php>)

4月1日(金)～7月18日(月・祝)

開館35周年記念特別展：鍋島焼－200年の軌跡－

2022年、戸栗美術館は開館35周年を迎えます。開館以来、陶磁器専門美術館として所蔵品によって展覧会を企画してきました。当館の所蔵品のうち、大きな一画を占めているのが鍋島焼です。精巧に作られた磁器であり、当館創設者 戸栗亨が好んで蒐集したやきもののひとつです。本展では、江戸時代の約200年間に及ぶ鍋島焼の歩みを、盛期を中心に、成形や装飾の技法、技術に注目してご紹介します。佐賀鍋島藩が威信をかけて製作した鍋島焼、約80点をご堪能ください。

